

# 令和7年度 自己評価報告書

令和8年4月2日  
学) 杉原学園 松永幼稚園

## 1. 本園の教育目標

心豊かでたくましい子どもの育成

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・ 子どもの対話を大切にした保育の充実
- ・ 健康な心と身体を育む教育活動の推進
- ・ ドキュメンテーションを活用した教育の見える化
- ・ 地域資源を活用した体験活動の充実

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもの主体性と対話を育む保育	A	子どもたちが自ら考え、話し合いながら活動を進められるよう、各学年・学級で「対話の時間」を実施した。行事や日々の活動においても子どもの意見を取り入れ、自分たちで考え、決定し、実践する機会を設けることで、主体的に活動へ取り組む姿が多く見られた。
2	一人ひとりに応じた支援と理解	A	子ども一人ひとりの発達や個性を理解し、それぞれに応じた関わりや支援を行った。職員間で子どもの様子を共有しながら保育を進めるとともに、保護者との個人懇談や日常的な情報交換を通じて、家庭と連携しながら成長を支えることができた。
3	健康な心と身体を育む教育活動	A	「みんなでわくわくあそぼう DAY」や日々の戸外活動を通じて、体を動かす楽しさを味わえる機会を充実させた。また、裸足遊びや自然との触れ合いを積極的に取り入れ、健康な身体づくりだけでなく、挑戦する気持ちや達成感など心の成長にもつなげることができた。
4	教職員の資質向上と園内研修	A	広島県私立幼稚園連盟や福山市私立幼稚園協会、行政等が主催する研修会に積極的に参加した。また、園内でも職員同士が保育について意見交換を行い、学びを共有することで、教育・保育の質の向上に努めた。
5	保護者・地域との連携及び情報発信	A	ドキュメンテーションや園だより等を活用し、保育のねらいや子どもの育ちを保護者へ分かりやすく発信した。また、地域行事への参加や図書館の利用、地域の方々との交流、園外での自然体験活動などを通して、地域資源を活用した教育活動を積極的に展開することができた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

## 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	子ども同士の対話や話し合いを保育の中に積極的に取り入れ、自分の考えを表現しながら活動を進める姿が多く見られた。また、「みんなでわくわくあそぼう DAY」をはじめとした健康教育や外遊びの充実により、心身ともに健やかな成長を促すことができた。ドキュメンテーションによる情報発信を継続し、保護者との教育内容の共有を図るとともに、地域の方々との交流や園外活動も積極的に実施することができた。教職員も研修や園内での話し合いを通して学びを深め、子ども主体の保育の実践につなげることができた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

## 5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	園児の見取りを深める	園児のよい部分をたくさん見つけ、そこを伸ばせるような関りをしていく。 園児の活動を全職員でさらに共有できるように環境設定をしていく。
2	健康な心と身体	園児の発想力・想像力・制作する力は十分に身につけていると感じる一方で、運動能力に関してはやや課題があると認識している。そのため、子どもたちの運動神経の向上を目指し、週に1回は外遊びにじっくり取り組む時間を確保する。 また、健康な心と体を育むため、次年度も引き続き「はだし遊び」を充実させていくとともに、園庭の環境整備にも取り組む。園庭に植えている植物などを見直し、より子どもたちが自然と触れ合える環境づくりを進めていく。
3	見通しをもった教育活動	先を考え、優先すべきことなど順を考えて計画的に教育活動が展開できるようにする。
4	支援が必要な子の対応、療育施設との連携	個々の幼児（特に配慮を必要とする幼児）について話し合い、どのような配慮、支援があればよいか共通理解を図る。公認心理士の中居先生とも連携を図りながら園児の育ちを支えていく。
5	保護者・地域との連携	ドキュメンテーションなどで保護者と教育内容を共有できているが、今までと同様、保護者と対面で伝えあうことも大切にしていきたい。
6	教職員間の情報共有	ICT や記録を活用し、子どもの育ちや支援方法について迅速に共有できる体制を整える。
7	対話的な保育の充実	子ども同士や教師との対話を大切にし、自分の考えを表現する機会を増やす。
8	教育内容の見える化	ドキュメンテーションや写真掲示を活用し、保護者に教育のねらいや育ちをより分かりやすく伝える。